

家畜の伝染病に関する野生動物疾病サーベイランスの検討

研究期間	平成 22 年度～平成 24 年度
課題番号	2208
研究実施機関	千葉科学大学 (大)帯広畜産大学 日本大学生物資源科学部
研究概要	<p>近年の鳥インフルエンザの広域流行を踏まえ、国際獣疫事務局 (OIE) では、通報すべき野生動物疾病の明確化等について検討しているところです。</p> <p>そこで、本研究では、野生動物から家畜への伝播可能性が指摘されている豚コレラ、オーエスキー病、ニューカッスル病、鳥インフルエンザ等について、国内外のサーベイランス実施状況及び実施体制を調査するとともに、国内畜産農場周辺の野生動物の実態調査を行い、家畜疾病を伝播する可能性のある野生動物種、伝播経路を特定し、伝播リスクを評価しました。また、その結果から、野生動物を対象としたサーベイランス方法を検討しました。</p>
研究成果の概要	<p>野生動物で監視対象とすべき感染症をきめる手順(序列化、ファクトシート作成、監視方法等)を明らかにし、また、北米、欧州、オセアニアの主要国の野生動物の監視体制等を調査しました。</p> <p>野生動物疫学調査を行うためのサーベイランス方法について、具体的に検査対象疾病、サンプリング対象動物種等を選定しました。</p>

(注) 研究実施機関の名称は、研究終了時の名称を記載